

主催 公益社団法人 福岡県医師会

共催 福岡県、福岡県教育委員会、西日本新聞社

後 援 九州厚生局、福岡市、北九州市、久留米市、飯塚市、大牟田市、行橋市、福岡市教育委員会 北九州市教育委員会、読売新聞社、産経新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社(順不同)

目次

募集要項

表4

1	選考委員	小学生の部	小学生の部	小学生の部	中高生の部	中高生の部	中高生の部	中高生の部	般の	一般の	一般の	入賞作品紹	表彰式の	表彰式	当催者あいるこ
		部	部	部	部	部	部	部	部			紹	様	:	V
		優	優	最	優	優	優	最	優	優	最	介	于		₹ ~
では、		秀	秀	慢秃	秀	秀	秀	慢秃	秀	秀	慢秃			:	ر: :
結 崇 加 祐 真 優 水 N S 優 要 雲 楠 季 実 希 葵 N S 香 さ さ さ さ さ さ さんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん		賞	賞	賞	賞	賞	賞	賞	賞	賞	賞				
結 崇 加 祐 真 優 水 N S 優 要 雲 楠 季 実 希 葵 N S 香 さ さ さ さ さ さ さんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん															
結 崇 加 祐 真 優 水 N S 優 要 雲 楠 季 実 希 葵 N S 香 さ さ さ さ さ さ さんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん															
結 崇 加 祐 真 優 水 N S 優 要 雲 楠 季 実 希 葵 N S 香 さ さ さ さ さ さ さんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん															
結 崇 加 祐 真 優 水 N S 優 要 雲 楠 季 実 希 葵 N S 香 さ さ さ さ さ さ さんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん															
結 崇 加 祐 真 優 水 N S 優 要 雲 楠 季 実 希 葵 N S 香 さ さ さ さ さ さ さんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん															
結 崇 加 祐 真 優 水 N S 優 要 雲 楠 季 実 希 葵 N S 香 さ さ さ さ さ さ さんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん		隈部	飯塚	斎藤	伸 居	上符	鳥越	村岡	K	F	塚 本				
さ さ さ さ さ さ さ さ ん ん ん ん ん ん ん ん ん		結整	崇靈	加	祐	真虫			N	· S	優系				
		さん	さん	さん	さん	さん	さん	さん	さん	さん	さん				
	21												: 3	2	1

主催者あいさつ



公益社団法人 福岡県医師会 松田 峻一良

医療・介護に関する体験記を募集するもので、今回 介護にまつわる経験、 にスポットをあて、 福岡県医師会作文コンクール「心のふれあい大賞 わたしのまわりの医療体験」 その家族との「信頼関係」という医療の原点 病気になった時に感じたことや 医療従事者とのふれあいなど、 は、 医療従事者と

考えております。 岡県の医療をよりよいものにしていく一歩になると 医療に対する思いを表現し、伝えていただくこと 県民の方々と医療従事者との絆をより深め、

が、

で五回目を迎えました。

優秀賞、 厚くお礼申し上げます。 の結果、 げますとともに、 ただきました。受賞者の皆様に心よりお祝い申し上 した方々、またご支援賜りました関係者の方々にも 今年度は、三七六点ものご応募をいただき、 一般の部・中高生の部・小学生の部から最 優秀賞の合計十名の方々を、 本コンクールにご応募いただきま 表彰させてい

だきますので、ご高覧いただけますと幸いです。 本冊子では、受賞者の方の作品を紹介させてい

表彰式



(平成31年1月19日(土) 福岡市・エルガーラホール)

伸居 祐季 さん●中高生の部優秀賞	塚本 優香 さん●一般の部 最優秀賞	村岡・水葵さん・中高生の部最優秀賞	上符 真実さん
斎藤 加楠 さん	飯塚 崇雲 さん	松田(峻一良	鳥越 優希 さん鳥地 優希 さん

表彰式の様子

(平成31年1月19日(土) 福岡市・エルガーラホール)





一般の部・最優秀賞 塚本 優香 さん



中高生の部・最優秀賞 村岡 水葵 さん



中高生の部・優秀賞 鳥越 優希 さん



中高生の部・優秀賞 上符 真実 さん



中高生の部・優秀賞 伸居 祐季 さん



小学生の部・最優秀賞 斎藤 加楠 さん



小学生の部・優秀賞 飯塚 崇雲 さん

最 般の部 夏



福岡市 塚本 優香

奇跡の子」

後ろ姿を見送った。 のだ。すこし猫背な、丸いカーブを描 風邪をひくと咳がよく出る子で、薄暗 い部屋で小さな背中をよくさすったも 「行ってきます。ママ寝ててね。」 「行ってらっしゃい。気を付けてね。」 つわり中の私を気遣う、優しい声。 私の最愛の娘、七

> 愛い。 と遊んでいたのかな。 う表情はあどけなく、 乳歯が抜けて、前歯のない口元で笑 あの日も、そんな笑顔でお友達 それはそれは可

交通事故だった。家路を急ぐ娘が車に 一月の、 小雨の降る寒い日だった。

... 「意識はなく、 眼球 はグルグル ٤

なモニター音。そしてたまに異常を告 もりのある声がした。 擦れる音。冷たい音の中に、とても温 より、処置をしてくれる時の、 げるアラーム音。急いでベッドへかけ 損傷により予断を許さない状態だった。 んでくれていたように思う。娘は脳の 誠実に行われた医師の説明。言葉を選 らい重い口調で、慎重にゆっくりと、 私達にはできない、 私の涙を吸収したハンカチと同じく ICUでリフレインされる、無機質 手の届かない治 白衣の

> ん。 手を握ってあげて下さい。」

見て笑顔で送り出してあげなかったの

く愛しいそれではなく、どうして顔

だろうと悔まれる。

む。そっと。生きている。 な小さな手。 たくさんのチューブや点滴につながれ た娘に手をのばす。クリームパンの様 優しい笑みの女性医師にお礼を言い 針のない指先を丁寧に包

きりするよ。」 歯をみがこうか。体もふこうね、 「おはよう。 おくちが気持ち悪いね。 すっ

まる。 てくれる看護師さんの笑顔で一日が始 るさと、優しさと、一所懸命さで接し 生きるか死ぬかの壮絶な現場で、 明

らい。」 「わぁ。 つ点滴を減らしてみよう。えらい、え 頑張ってるね。今日からひと

でなく、「辛い傷病を抱えた人」を看 望を見出せない私達家族に、 てくれている。 えた光で照らし、「傷病」を看るだけ 多忙な医師も、 意識のない娘と、 医療をこ

き添う病棟へ移動することができた。 CUを卒業し、 「頭ずっと洗っとらんけん、今日シャ 私の「命がけの信頼」を託した。 泊まりこみで家族が付

療があります。ご家族にしかできませ

●一般の部 最優秀賞 — 「奇跡の子」

とよ!| ンプーしようか。ベッドの上でできる

う。
さそうに見え、私は涙ながらに礼を言た。うっすら目を開けた娘が気持ちよた。

ね。」かの子やけんきれいにしとかなが。女の子やけんきれいにしとかな

ね。」
ながら足湯しよう。気持ちいいよ!」
「ごめんね。おしっこで背中が冷たしながら足湯しよう。気持ちいいよ!」

ね!」開いとるね!すごくかわいいよ。いい「わぁ!今日はいつもより目が大きく

ただきます!」チューブはすぐ慣れるけん大丈夫。い「今日から鼻からご飯たべるよ。

張ろうね。この車椅子、小さめでいいいまのはめてもらおうね!すごいよ!」「さぁリハビリの時間です。今日も頑「さっとのなったがなった。」というない。

手だね!」いね!逃げて。顔をよける!そう、上「ほら、冷たい氷だよ。ほっぺた冷たやろ!」

た。

ありがとう。」ありがとうって手を合わせてくれて、「こんにちは。先生びっくりしたよ。

その足跡は神々しい。一歩を繰り返し、確実に歩み始めた。古に礼を言う様に、娘は小さなる愛の声。先生、看護師さん、療法士の愛の声。先生、看護師さん、療法士の足跡は神々しい。

大丈夫!」

で日カンファレンスがあって、あの子に可かの子ってみんな呼んでるんです。

ね!

れていた。 励ましの声が私達家族を強くしてく

い。」「ママ見て!抱っこ上手やろ。かわい

めている。そう。娘の命の灯に吹いた守る父親。その光景を私は台所から眺何度夢見ただろう。子供二人が見つめ娘が産まれたばかりの弟を抱く姿。

燃えるように真心を持って守ってくれが盾になり、消えないように、大きく強風は、医療と様々なスタッフの方々

る。 必要な行為を行う「救命の な命を救う為、 におそわれるか予測ができな て全力を尽くしてくれる医師 素人の私達にもできる事がある。 「ママ、 人はいつ、 内緒よ。私、 どこで突然の 迅速に途切れる事なく 看護師さんにな 連鎖」 け がいる。 がや病気 には 大切

「きっとなれるよ。お勉強も頑張ろう

ではなく笑顔を見送ろう。つか一人で外出する日がきたら、背中スペシャリストがついている。娘がいが、私達には共に力戦奮闘してくれるが、私達には共に力戦奮闘してくれるが、私達には共に力戦奮闘してくれるが、

行ってらっしゃい。気を付けてね。」

憂 一般の部

秀賞

転院したその先で」

問タイムに戸惑い、 た方がいいかもしれません。突然の質 そう言ってニッコリ笑う先生を見て、 ハッとしました。びっくりしたと言っ 「何か質問はありませんか?」

と答えると 。 ありません。 」

> も心が折れ、そのうち病院に行くこと ちは病院の指示に従い治療を頑張って 半通っていました。そこの病院はい が苦痛でたまらなくなってきました。 いましたが、一向に光が見えず、何度 をこなしている感じでした。最初のう り、病院のスタッフはみな淡々と仕事 も治療を必要とする人で溢れ返ってお もう、目から鱗でした あとにして『質問?質問していいの?』 と答えるのが精一杯でした。診察室を りに、うんうんと頷いている。 とさらにニコリ。横にいる看護師さん 「だっ、大丈夫です。」 私は不妊治療の為、他の病院に一年 『遠慮せずにどうぞ』と言わんばか

経て、出産した人に会い、話を聞くこ た。転院を考えていた私に三軒目の病 三軒目の病院で子供を授かったのでし とができました。彼女は二回転院し、 ちょうどその頃、同じく不妊治療を

院を勧めてくれました。

何でもいいですよ。」

容を簡単に書いたノートを渡すと、 るわけでもなく訪れた私を先生は温 く迎えてくれました。今までの治療内 「次回、診察日まで預かっていいです 転院初診日、前の病院の紹介状があ

か?

入したのでした。 受けたあと、冒頭の質問タイムへと突 きちんと書いてくるべきだったと後悔 しました。一通り診察が終わり説明を えると思っていなかった私は、もっと と言われ、そんなにしっかり見てもら

判定まで進むことができました。結果 りました。治療も順調で、初めて妊娠 ず、いつも、ほんわかとした雰囲気で みようと前向きに治療に取り組めまし は陰性だったけど、もう少し頑張って ストレスが一気になくなったのがわか にこやかで丁寧に接してくれ、通院の した。また、スタッフの方も、とても 先生は多忙極まりないにもかかわら

こと。 めました。 で辿り着けるのは年間に数人だという る人がいるということ。 は四十三歳。私より年上で治療してい り言のようにポツリ、 として無言で落ち込む私に、 治療も残念ながら陰性でした。 これを最後にしますと宣言 いことを察したのでしょう。 私がきっぱりと諦め切れな ポツリと話し始 そして出産ま Ĺ 当時、 先生は独 肩を落 挑んだ 私

た。

しかしその後も陰性の判定が続き、

「妊娠までは結構、行くんだけどね。」「妊娠までは結構、行くんだけどね。」

「僕のしていることは何なのだろうかと思うこともあってね。」たのだろう。先生はみんなと共に苦したのだろう。先生はみんなと共に苦したのだろう。

と思いました。

夫婦でよく話し合うようにと猶予をくれました。一生懸命治療にくる人のとこまで気にかけていました。診察室を一緒に出た看護師さんが教えてくれを一緒に出た看護師さんが教えてくれを一緒に出た看護師さんが教えてくれました。ここで治療をしている最高年もんと診ますと。その言葉はとてもありがたかった。

ないように頑張った治療。 笑顔で迎えてくれました。 が悪そうに現れた私を先生はいつも いが強くなり、 に、このままでは終われないという思 状態で生きていました。そして日に日 からず、一カ月ほど地に足が着かな して、何を生きがいにすればよい ていなかったことに気づきました。 に、子育てをしない人生について考え れだけ治療を続けて授からなかったの そして迎えた翌日 再度先生の元へ。バツ からの喪失感。 悔いが 結果は惨敗。 残ら か分 そ 2 0)

> るのに必死でした。 しかし私は先生に笑顔でお別れをしたかった。お礼を言い、早々に立ち去ろから先の人生について話し始めました。から先の人生について話し始めました。

先生、私は先生に診てもらえて本当に幸せでした。先生の治療はとても丁のでした。また看護師さんにも感謝してでした。また看護師さんにも感謝してが漏れたことがありました。あやまるが漏れたことがありました。あやまると、

「少し動いたくらいで、漏れるような打ち方ではいけないのです。」とわびながら素早く打ち変えてくれた姿を見て、すごいと思いました。先生、を崩すことのないよう、健康第一でこれからも悩める夫婦を救ってください。

優秀賞 一般の部

福岡市 $K \cdot N$

それでも人生は 素晴らしい」

「難病です。」

の耳にいつまでも響く。 いる私。初めての告知は大学二年生の どこか他人事のようにぼんやり聞いて しん、とした診察室でこの言葉が私 難病かぁ、と、

> 夜、これからもきっと続くであろう人 間付け、鼻にはいつも栄養のチューブ だった。母にごめん、と言いながら泣 夏休み、まだ蝉もうるさい暑い夏の日 生きる理由が見つからなくて眠れない い治療を繰り返しても未来が見えず、 きていけない現実に絶望した。何度辛 来ず、周りに迷惑をかける事でしか生 がある。トイレもお風呂も一人では出 わり、食べる代わりに点滴を二十四時 上にいた。歩けていた足は車椅子に変 いる間もずっと、私は病院のベッドの 大学を卒業し、就職し、 まま私は、二十六歳になった。友達が いたあの日を私は一生忘れないだろう。 二十歳の冬に入院し、一度も帰れぬ 必死に働いて

は、とてつもなく長くて、大きな大き 字で終わる私の六年。でも私にとって 生きてきた。文章にすればたった八文 生を思って何度も涙を流した。必死に

な六年だった。

の検査や治療、 病気になったばかりの頃は、 動かせない体への恐怖 初めて

ころか、自分の事も受け入れられず、 りをしてしまう自分もいた。母の事ど 持ちを分かっていながら、見て見ぬ振 思えば、私以上に。それでも、母の気 ている母は、とても辛そうだった。今 事への苛立ちと悲しみに打ちひしがれ この前まで歩いていたのに、食べれて ばかりのような気になっていた。でも、 でいっぱいいっぱいで、辛いのは自分 先生と何度も何度も言い争っていた。 のだ。そんなの戸惑うに決まっている。 られないようだった。普通に一人暮ら いたのに、と、母もなかなか受け入れ トから自分で動く事も出来なくなった しをして学校に行っていた娘が、ベッ 「どうか、娘を治して下さい。」 すぐそばにいるのに、何も出来ない

- 「それでも人生は素晴らしい」 一般の部 優秀賞 一

いた。 もうどうしていいか分からなくなって

なって、 方がニコニコと私を見ていた。 は私と同じ病気だった。 と、どこからか声が聞こえてくる。 いて顔を上げると、 「笑わなきゃ今日がもったいないよ。」 友達になった。 向かいのベットの すぐに仲良く その方 驚

٤ よ キーなんだよ。 「自分が病気な事は不幸じゃないんだ むしろ、こんな経験が出来てラッ 何のためらいもなく言える、 優し

ŋ

た。 師さんの手の温かさに優しさを感じ、 先生の諦めない姿勢に頑張ろうと思え しずつ、変わっていけたのだと思う。 友達の頑張りに希望をもらい、 私が笑えば、 私はその友達との出会いから少 周りも笑ってくれる。 看護

私が元気だと、私より喜んでくれる。

元気な体では分からなかったであろう

だと実感した。 優しさが、いつもそこにはあった。 はたくさんの人に、 必死だったのは私だけ 生かされてきたの 私

と思えた。「それでも人生は素晴らし なんて素晴らしい日々だったのだろう たのだ、そう気付いたら、私の六年は ではなかった。皆で一緒に頑張ってき

葉だった。気付かなかっただけで、 これまで私が何よりも信じたかった言 の事実が私に前を向かせる。 の人生はやっぱり素晴らしいのだ。こ い」あるドラマの台詞がふと浮かぶ。 の自分はもういなかった。 悲観ばか 私

と、教えてあげたい、

と思う。

「それでも人生は素晴らしいんだよ。」

ではなくなる。 れる。 日も、 同じくらい嬉しい事もある。 しくて、きつい事に支配されていた一 れば色々な事があるけれどきついのと 病気だろうとなかろうと、 ちょっとした優しさ一つで救わ それだけで、 きついだけの一日 すごく苦 生きてい

> なあ。| 「今日は、 お喋り出来て楽しかった

れば。 りの人の小さな優しさに気付けさえす 外単純な事で癒されるものなのだ。 たら、と思う。 ら、楽しかった一日に変えてあげられ と、そんな一日になる。 だから私も、 誰かの心を救えた 人間なんて案 周

てくれている私の体に、 に、きつい治療と痛い処置、毎日頑 私の事を支えてくれている全ての人 最大級のあり 張

がとう、を。

中高生の部

最 憂

北九州市・高校2年 村岡 水葵

「私の目指す未来」

出しました。 は自分自身の体験のことを一番に思い 「私の周りの医療体験」と聞いて、 私

うな、

悲しそうな父の顔でした。

は、

緒に説明を聞いていた、苦しそ

の病気を患っています。 しました。当時私は中学一年生でした。 私は「もやもや病」という、 四年前に発症 脳血管

> う?」と言われました。 の画像よりも、 しました。 なるのか理解できないながらも納得は 部だけ途切れた血管があり、 が続いているであろう場所になぜか一 あるはずの血管が映ってないでしょ から「この画像にあるように、ここに MRIを撮影、診察室に入ると、先生 てくれ、病気が判明しました。初めて ら」、と感じた母が病院へ連れて行 父が同じ病気だったため「もしかした ひどい頭痛に悩まされていたのですが、 しかし、 私の頭に焼き付いたの その途切れた血管 通常なら血管 なぜそう

ました。そこで私に病気の進行が告げ 頻度が上がったため、 判断でした。しかし、 い検査の結果すぐ手術は必要ないとの その後、入院をして精密検査。 一年後、 K病院に転院し 頭痛 詳し 0

> その時、 契約書にサインしました。不安でした。 進行していて、手術をすることになっ の必要はない、 られました。 の頭痛が少しでも軽くなるのなら、 ては衝撃的なものばかりでしたが、こ たのです。脳左側の血管でした。 した。「もしかしたら」、の話は私にとっ 初めての手術の説明は「リスク」で 問題はない、すぐに手術 と言われたのに病気が

トの話をしました。 いながらも私は好きな声優アーティス と聞いてきました。なんだろう、と思

出したように私に、

一人の看護師さんがふと思い

「好きな歌はなに?」

見送られ、 した。驚く私に、 優アーティストの音楽が聞こえてきま すると緊張していた私の耳に好きな声 手術当日。 私は手術室に入りました。 病棟の看護師さんたちに

「水葵ちゃんの話聞いてたからCDか

けておいたよ。

護師さんがいました。 ができました。 ながらリラックスして手術に臨むこと とにっこり笑いながら教えてくれる看 私は音楽を聴き

く頑 面会しました。 言ってくれました。 ほっとした表情の でした。 いる家族を呼びに行ってくれ、 目 張 が覚めるとICU ったね、 周りにいる看護師さんが外に 目に涙をためた父と、 よく頑 母 がいました。「よ 《張ったね。」 と (集中治療室) 両親と

護師さんたちが笑顔で「おめでとう 持ってきてくれました。 で一晩過ごした私に、 かりという時期でした。 は高校受験の直後、 術をすることになりました。 それから一年たち、 合格発表を待つば 母が合格通知を 私は二度目 術後のICU 緒にいた看 その時私 の手

> 春休み期間を高校への入学準備と術後 うに喜んでくれました。 の体調管理に費やしました。 主治医の先生が自分の家族のことのよ 棟に移ってからは担当の看護師さんや !!」と声をかけてくれました。 そこから私は、 般病

将来について考えることができる幸せ 気がしています。 を避けて通るわけにはいかないという 分の進路決定にこの二度の手術のこと をかみしめています。 の進路を考える機会が増えてきました。 私は高校二年生になり、 そして私は、 卒業後 自

11

す。 不良もあります。長く病気とつき合う 手術をしましたが、 ばならないものもあります。 何度もつらい治療や手術を重ねなけれ 我もあれば、 学校を欠席してしまうような体調 度手術をすれば完治する病気や怪 その症状と一生つき合い まだ頭痛はありま 私も二度、

す。

それが私の目指す未来です。

うに。 時、 ちを和らげ、 者さんをしっかりとサポートし、 ださった先生や看護師さんのように患 安を取り除く手助けができるのでは が高校の合格発表をICUで聞いたよ という場で「暮らし」を経験すること きるような看護師になりたいと思 や治療を控えた患者さんやご家族 が病室や検査室で営まれるのです。 になります。 かと思っています。 患者さんはもちろん、 それを経験している私には手術 寄り添っていくことが 病気や怪我以外の「生活」 私を担当してく 家族も病院 気持 の不 私 ま

中高生の部

憂



鳥越 優希

院で産まれた。

北九州市・中学2年

たくさんの 奇跡がつながって」

には、 達にいただいたメッセージカードやお 護師さんやお医者さんに囲まれ笑って いる写真がある。 私の部屋にある思い出ボックスの中 赤ちゃんの私が、たくさんの看 他にも、 看護師さん

> とはなかったそうで、兄と同じ個人病 まれてきた。妊娠中は特に変わったこ 私は、先天性の内臓奇形をもって産

風呂に浮かべるアヒルのおもちゃなど

が入っている。

に食道閉鎖症の手術を受けた でKセンターに転院し、その日のうち て吐いてしまったそうで翌朝、 しかし、何度ミルクを飲ませても全 救急重

たと話してくれた。

えず安心したそうだ。 たけれど、手術が成功したのでとりあ 家族は、 突然のことでたいへん驚い

「突然呼吸が止まったが、処置が早く 数日後、病院からの連絡があり、

蘇生しました。

よりもどんどん減っていくという心配 たが、 け、いろいろな先生に診察してもらっ と告げられたそうだ。様々な検査を受 原因が分からず、 体重が出生時

> 刻なことらしい。また、呼吸が止まる 十グラムずつ体重が増える時期だそう 産まれてすぐの赤ちゃんは、 な日々が三ヶ月も続いた。通常ならば ただ祈るしかできない苦しい毎日だっ 発作も度々起こるようになり、家族は で、体重が減るというのは、とても深 毎日約三

常症と診断され、手術のためにK病院 を訪れた先生により、 に転院することになった。 三カ月後、たまたま出張でその病院 総肺静脈還流異

もある病気らしい。この時、 が循環できないため、不幸にして亡く 房中隔欠損も合併していなければ血液 だったそうだ。しかもこの病気は、心 なった後に解剖によって見つかること きる病院があったのは、 かなり難しいそうで、近くに手術がで 赤ちゃんの心臓病は、診断も手術も 幸運な偶然 お医者さ

心を込めてお世話をしてくれたそうだ。

んから、

七年早く産まれていたら治療法がな「産まれたのが今でよかったですね。

と言われたそうだ。

かった病気です。」

十時間を超える手術は成功し、心臓は順調に回復に向かった。しかし、まが起こるようになった私は、再びKセが起こるようになった私は、再びKセンターに転院し、生後十ヶ月までNI

私を、看護師さんやお医者さん達は、その間、どんどん大きくなっていく

来てくれた。

風呂にアヒルのおもちゃを浮かべてくに背負われていたり、看護師さんがお両親が面会に行くと、若いお医者さん

護師さんの中には、小児科病棟に移っれたりしていたそうだ。NICUの看れたり、空いた時間に一緒に遊んでく

思議なことだと思う。きっと、私に関

嫌いにならなかったことは、

とても不

てからも、仕事の前後に遊びにきてく

れ

ていた人もいたらしい

返す日々だった。いつからか、ぼんや小学校低学年までは、入退院を繰り

覚えがある。廊下を通る看護師さんやだったけれど、それなりに楽しかったのがっていて少しだけ不自由りと覚えている入院生活は、いつでも

「久しぶり。」

掃除をしてくれるおばちゃんが、

ていると思う。

人以上にたくさんの奇跡が積み重なっ

方に休みの日にまで、先生達が会いにと笑顔で手を振ってくれたり、朝や夕

今でも私にとって病院に行くことは、 嫌なことではなく、親戚に会いに行く はうな場所という感覚がある。この歳 になって改めて考えてみると、痛いこ

とが、自然と身体の中に染みついてい方々が、愛情をもって接してくれたこわってくれたの医療関係者の

康に成長できているということ、他のなっていると言われるが、私が今、健命の誕生には、たくさんの奇跡が重るからなのだと思う。

師の仕事をしたいと思っている。母に私は将来、自分が育った病院で看護

話すと、

育った病院に戻るなんて鮭みたいだ

ね。

けれど、私はとても気に入っている。と言った。ふざけた表現だなとは思う

ある。

私の場合、早期発見だったため、

かった。

ると手術をしなければならない場合も

中高生の部 優 秀

は

背骨が曲がる病気で、発見が遅れ

で「側弯症」と診断された。

側弯症



福岡市・中学2年 上符 真実

側弯症を 知っていますか」

中を叩かれていた。 の人とは違う音がする。 小学校のとき、私は挨拶代わりに背 私の背中は、 ポンではない。 ほか

゙カン」と鳴るのだ。 私は、小学校五年生のときにK病院

> 型をとる。 石膏をラップの上から塗って、固めて プで胴体をぐるぐる巻きにされ、 ブランコのようなところに座り、 装具をつくるためにはまず型をとる。 胴体全体を覆うようにつくられている。 手術はせず装具治療を始めた。 装具はプラスチックでできていて、 熱い ラッ

日常の動作が困難になる。 めつけるから息が苦しくなる。 日中つけなければならない。 装具は重く、硬い。 入浴時以外は一 胴体を締 また、

たり、 いう音をきいて楽しんだりしていた。 メイトは、「サイボーグ」などと言っ 学校にもつけて行っていた。 私の背中を叩いて、「カン」と クラス

> 側弯症のことを説明しても 「姿勢が悪いから猫背になったんじゃ

٤ ない? 理解してくれる人は一人もいな

ない。 葉を思い出している。 なる。そういうときはいつも、この言 ういうことを言われると涙が出そうに 背中が痛くなる。 が曲がっていることがまったくわから るでしょ」と言われることも多い。こ らない人が多いから「これぐらいでき も多い。しかし、 しゃがんだりずっと同じ体勢でいると 症状の一つに背骨の痛みがある。 のつらさがよくわからない。 かなくなった。 つけることになり、学校にはつけて行 中学校にあがってからは、 だから、 まわりの人も私の病気 私は、見た目では背骨 病気のことをよく知 だからできないこと 側弯症 家でのみ 私は

張ってつけている証拠だよ わかるよ。 よく頑張っているね。 この装具の汚れ 装具を見 は 毎 日 ħ ば 頑

師は、 素晴らしい存在なのだと思った。 勇気づけられ、 言われた。 あったりして、装具なんてやめてしま 言われた言葉だ。学校でつらいことが いたいと思っているときにこの言葉を これは、 精神的にも患者を支えてくれる、 これを聞いて、 検診のときに病院の先生に 頑張ろうと思えた。 私はすごく 医

た。 だとうれしい気持ちでいっぱいになっ 行が止まった。 を続けてきたのは無駄ではなかったん も喜んでもらえて、 日装具治療をしていたからだ。 そして、 中学二年生の 先生の言葉を胸に、 今まできつい治療 春、 背骨 先生に の 毎 進

る。 側弯症。 あまり知られていないのは、 この病気の人はたくさんい 自分

善

するべき点だ。

また、

検査方法を改

は

わからないのだ。

これは自治体

が改

善すると同時に、

側弯症についての理

だ。どちらか片方が高かったら側弯症 で、 多いからだ。 と診断される。 前屈検査がある。 肋骨の高さが同じかをみてい 毎年、 しかし、 あ いれは側が 学校の健康診断 この検査で診 湾症の ・るの 検査 で

が側弯症であることに気づかない

人が

状の場合、 状である。 発見は難しい。 検査では困難だ。 断されたときにはもうすでに重度の症 レ 早期発見をするのは、 ントゲンを撮らなけ 装具治療ができる期間 私のように軽度の症 この れば

な V 査もレントゲン検査をする必要がある。 すごく大事なのだ。 治す方法は手術しかない。 ントゲンを撮らなければ、 い場合が多くある。 だから、 前屈検査だけで 早期発見は 学校 発見でき いの検

> 解を深めるべきでもある。 か <u>ک</u>ر 学校の先生もこの病気につい この病気は決 生徒 にはとも 7

よくわかっていない。

知ってもらうべきことがたくさんある。 か、 どいことを言えるのだ。 らないからサイボーグや猫背など、 て珍しい病気ではないのに、 ついてよく知らない人が多い。 治療がどれほど大変なの 側弯症とは 側弯症 か よく など S 何 知

ことができるようになることを願って しでも多くの 人に側弯症について知ってもらい、 私は、 この作文を通してたくさん 人が適切な治療を受ける 少

は限られてい

る。

その期間を過ぎると

い 、 る。

中高生の部 憂



北九州市・高校1年 伸居 祐季

寄り添う言葉」

体調は戻らなかった。

間に流れている時間は、 ていたのかもしれないが、本当に気が 合っていたと僕は思っている。二人の 父がお墓に入って五回目のお盆だ。 八月。今年もお墓参りに行った。 祖父とは気が合った。合わせてくれ ゆったりと同 祖

> 栄養価の高いものを用意したりしたが きっと夏バテだろうと、点滴をしたり と、いつも祖父と出かけたがった。 顔で付き合ってくれた。だから僕は、 孫のつまらない遊びに、いつまでも笑 祖父から否定されたことは一度もない。 じ速さだった。僕がやっていることを、 「じいじとお祭りに行きたい。」 「じいじと水族館に行きたい。」 そんな祖父が夏に体調を崩した。

> > ょ。

は病識や不安感がないことだった。 望した。救いは認知症のため、 父は死んでしまうのだろうか。 「白血病」だった。もう一緒に出掛け し合えないのだろうか。それより、祖 られないのだろうか。 してしまう祖父の血液検査の結果は 秋になっても、すぐに息切れを起こ 紙飛行機を飛ば 僕は絶 祖父に

> 力を奪ってしまう抗がん剤治療はせず に、痛みは取るということだった。そ 祖母の希望は、 八十五歳の祖父の体

「きっと僕でも、 同じことをします う医師に伝えると、

ちもあったそうだ。 ないのは、 母は思っていたが、積極的な治療をし Ł, うことになるのではないかという気持 の時間を病院で過ごさせたくないと祖 静かにおっしゃった。 治る可能性を放棄してしま しかし、医師の言 祖父の最後

結果が悪くなっても抗がん剤治療をす 採血の注射針も入らなくなった。 で立つことが難しくなり、血液検査の が、そのうち、 経過を診るために毎週通院していた 歩行やレントゲン撮影

るわけではないのに、辛い思いをして

葉に背中を押され、決断できた。

一 「寄り添う言葉」 ●中高生の部 優秀賞 -

り、

手足の先が氷のように冷たくなり、

ある寒い夜、

静かになくなった。

リーを一口二口食べるのがやっとにな

通院するのはどうなのだろうか。 そろそろ次の決断の時が来た。

り過ごさせたいです。」 「訪問看護を利用して、自宅でゆっく

「きっと僕でも、同じことをします そんな祖母の願いに、 医師はまた

ょ。

だが、 もお雑煮も食べた祖父だったが、 時間を過ごしていた。年を越し、 に寝ている時間が長くなり、栄養ゼ 問看護が始まった。苦しいはずの祖父 と、優しくおっしゃった。その後、 変わらぬ優しい笑顔で穏やかな 徐々 お節 訪

てくれる医師の言葉が無かったら、決 はしなかった。 僕たち家族は寂しかったが、悲しみ あの時、 心に寄り添

> 信を持って自宅で十分な時間を一緒に 断を後悔していたかもしれないが、 自

過ごしながら見送れたからだ。

ありがとう、先生。

ありがとう、じいじ。



賞作 品

最



斎藤 加楠

と、やくそくしました。

「こんどかって、もってくるね。」

那珂川市・小学2年

こんでくれます。わたしは、 ちゃんはしんぞうがわるいので、ずっと すきな人の一人です。とてもやさしくて、 ひざにおいて、りょう手を広げてよろ が会いに行くと、よんでいたしんぶんを いえから出ることができません。わたし いつもにこにこしています。ひいおばあ むらさき色のくし ひいおばあちゃんは、わたしが一ばん ひいおば

あちゃんとおりがみをしたりお人形あ

しくて、 ばあちゃんとおそろいになるのがうれ はでな色がすきです。わたしはひいお と言いました。ひいおばあちゃんは、 たしがもってきたくろいくしを見 あそびました。ひいおばあちゃんは そびをしたりして、たくさんたくさん 「おなじくしの、むらさき色がほしい」 わ

ずっとひいおばあちゃんのそばにいまがはなしかけてくれました。わたしはのをがまんしていると、かんごしさんがしていました。わたしがなきそうないて、きかいから、ピッ、ピッ、とおと ずそうとして、そのたびにかんごしさ でした。とくべつなへやの中で、ひいおよ中のびょういんは、とてもしずか るしそうにして、 した。ひいおばあちゃんは、 てねていました。あせをいっぱいかいて ばあちゃんは、とうめいなマスクをし しながら、びょういんに行きました。 ん、しなないで」とかみさまにおねがい たそうです。わたしは「ひいおばあちゃ ちゃんはきゅうきゅう車でびょういんに かなくなって、いきがなくなってしまっ はこばれました。しんぞうのふたがうご それからしばらくして、ひいお なんどもマスクをは いきをく ばあ

かれをしました。

をしてしまうと、くるしむだけになる できないようです。むりにしゅじゅ よわくなって、しゅじゅつをすることが んがなおしてくれました。 ひいおばあちゃんは、もうからだが

つ

そうです。みんなでみまもりましょう、

とせんせいのおはなしがありました。 えで、かなんちゃんとよばれました。 なでました。すると、ひいおばあちゃ けを、もってきたむらさき色のくしで んが目をあけました。とても小さなこ わたしは、 わたしはかんごしさんにおねがいし ねているひいおばあちゃんのかみの

とわたしを見ていてくれました。 ちゃんは、くるしそうにしながら、ずっ けをなんどもときました。ひいおばあ といって、くしゃくしゃになったかみの 「ひいおばあちゃん、くしもってきたよ。」 つぎの日、ひいおばあちゃんとお わ

せんせいやかんごしさんがひいおばあのいえからとます。 をまもることができました。 のいえからとおいです。びょういんで、 たしはひいおばあちゃんとのやくそく むらさき色のくしは、 わたしのいえは、ひいおばあちゃん いまはわたし

がつかっています。

入賞作

小学生の部

大木町・小学3年 飯塚 崇雲

ました。

「みーちゃんの入院

みんプールに行って、あそぶことにし 歩行用のプールで楽しんでいました。 お父さんとおばあちゃんと妹たちと市 ていました。 みーちゃんが入院しました。その日は ぼくは、 おばあちゃんとい っしょに

夏休み前のあつい日の夕方、 妹 0

しばらくしたら、 お父さんが、 ん者さんがいる先生がみーちゃんな絵をかいてくれました。大ぜい テープに、みーちゃんのために大好き にかいてくれて、

そうで、ぼくが病気をかわってあげた度をこえていたそうで、とてもかわいもしませんでした。その時ねつは四十 いつもはニコニコえがおの女の子なの うすを見に行ったら、みー 運ばれている所でした。 きゅう急車が来ていて、 くがしんぱいになって、 と言って走って行きました。そしてぼ がおかし つぎの日、 その日はぐったりしていてわらい ちゃ いけん病院に運ぶけんね。」 入院したみー つが上 みーちゃんが おいかけると、 一って、 -ちゃん ちゃん ようす は、 のよ

チューブを動かないようにうでにまく けど、まだ元気はありませんでした。 前をよんでくれてニコニコしてくれた 会いに行くと、みーちゃんはぼくの名 少し下ったときいて、またつぎの日に まだぐったりしていました。 そんな時、 お母さんから、 またつぎの日も会いに行ったけ 病院の先生が点てきの みーちゃんのね つが れ

> ちゃ えました。 と考えました。 、んに出 来る事があるんじゃ いっしょうけんめい V か

ぬいぐるみをわたそうかとわくわくし持って会いに行きました。どうやって を思い出して、ぼくは、そのぬいぐる みを持って行こうときめました。 みーちゃんの大好きな玉子やきを 先生がテープにかいてくれた絵 0 事

ぼくは先生より、みーちゃんをよろこ ばせたかったのです。 くは「先生に勝った」と思いました。 ちゃんはびっくりして、うれしそうで、 大きな声を出してよろこびました。ぼ くしてみーちゃんに手わたすと、みー おべんとう箱の下にぬいぐるみをか

いと思いました。

の ふあんそうでした。 が終っていなくて、 ねつが下がってたいいんしました。 だけど、 それから何日かたって、みー みーちゃんはまだ、 お母さんはとても けんさ ちゃん

V は んはけんさをうけに行きました。 この日からぼく 問題なし。 生活がもどり、 おぼんが終ったつぎの日、 、たちの 楽しい夏休みが始ま いつもの みーちゃ 楽

生なんだなと思いました。ぼくもみー

ŋ

きっとやさし

いのたか

入賞作品

いつもおいしゃさんは、わたしが、



福岡市・小学1年 隈部 結葵

す。

びょういん

びょういんのおいしゃさんが、なおし くれました。 みてくれて、 はなししてくれて、おくちとからだも れたかというと、わたしとやさしくお てくれました。どのようになおしてく わたしが、ねつでぐあいわるいとき、 ぜんぶきれいになおして

> す。でも、いつもえがおでやさしいで とおもいます。いそがしいとおもいま みて、なおしているので、たいへんだ てくれます。 きついときは、わたしのことをしんじ おいしゃさんは、たくさんのひとを おはなしをきいてくれて、なおし

ごいです。もしかしたら、まほうでつ なろうとおもいます。 になりたかったけど、 いるひとも、ほんとうにすごいです。 きいてみようとおもいます。 くっているのかもしれません。こんど、 なおるくすりをつくってくれます。す なぁとおもっていたけど、ほんとうに りなんて、ほんとうにつくれるのか とうにすごいです。ひとをなおすくす くすりをつくっているひとも、 わたしは、 おいしゃさんも、くすりをつくって おおきくなったら、 わたしが、ぐあ おいしゃさんに まま ほん

> も、みんながんばってね。 おくすりつくるひとも、かんごしさん なるまで、いつもわたしをみてくれて うれしいきもちにさせるおいしゃさん ら、わたしは、やさしくて、みんなを と、うれしいきもちになります。だか さんになります。やさしくしてくれる くれるおいしゃさんみたいなおいしゃ いわるいときに、いつもやさしくして いしゃさんになったら、 いるおいしゃさんも、がんばってね。 になります。わたしがおいしゃさんに いっぱいわた わたしがお

ります。 だけど、やさしいおいしゃさんがいる から、うれしくなるびょういんをつく びょうきになるのは、とってもいや

しが、がんばります。

選考委員

福岡県教育委員会 薄井 純一

西日本新聞社社会部編集委員 井上 真由美

筑紫女学園大学文学部日本語・ 日本文学科教授 中村 萬里

福岡県医師会広報委員会委員長 林 洋一

福岡県医師会常任理事 原 祐一

福岡県医師会理事 佐藤 薫

福岡県医師会理事 青柳 明彦

福岡県医師会理事 西 秀博



募集要項

- ●医療従事者と患者さん、その家族との「信頼関係」という医療の原点にスポットをあて病気になった時に感じたことや介護にまつわる経験、医療従事者とのふれあいなど、医療・介護に関する体験記を募集します。
- ●400字詰め原稿用紙3枚~5枚以内(1,200~2,000字)鉛筆(B、2B)/ボールペン/万年筆/パソコン/ワープロのうち、いずれかを用いて、 濃くはっきり書く。

※パソコン・ワープロの場合、1ページ400字(20字×20行)。

- ●表紙をつけて、部門、題名、〒住所、氏名(ふりがな)、年齢(生年月日)、性別、所属、 電話番号、FAX番号を明記して下さい。
- ●福岡県内の学校に在籍する児童生徒、および一般県民 ※医師を除く
- ●自作の未発表作品に限り、盗作、二重投稿は固くお断りします。※応募作品について盗作等による著作権侵害の争いが生じても、主催者は責任を負いません。
- ●応募作品は返却いたしません。
- ●入選作品の著作権、出版権は主催者に帰属します。 ※そのため主催者、後援者がインターネット上で開いているページや、雑誌、テレビ、ラジオ、 書籍、教材などに利用されることがあります。
- ●【一般の部】最優秀賞 1名 優秀賞 若干名

【中高生の部】 最優秀賞 1名 優秀賞 若干名

【小学生の部】 最優秀賞 1名 優秀賞 若干名

受賞者には賞状と副賞を授与いたします。

【問い合わせ】福岡県医師会総務課 作文コンクール係(TEL 092-431-4564)

主催:公益社団法人福岡県医師会

共催:福岡県、福岡県教育委員会、西日本新聞社

後援:九州厚生局、福岡市、北九州市、久留米市、飯塚市、大牟田市、行橋市、福岡市教育委員会、 北九州市教育委員会、読売新聞社、産経新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社(順不同)



平成31年2月発行 公益社団法人福岡県医師会

〒812-8551 福岡県福岡市博多区博多駅南2-9-30 電話:092-431-4564 FAX:092-411-6858